横浜 AIDS 市民活動センター　ニュースレター　第 149 号（5600 部　2017 年 7 月 10 日発行）

HIV・エイズ、性感染症の正しい知識・最新情報をわかりやすく解説！

おーぷん

URL　http://www.yaaic.gr.jp/

発行：横浜 AIDS 市民活動センター
公益財団法人横浜YMCAが横浜市から事業を受託しています。

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3 丁目 39 番地尾上町ビル 9F　／TEL：045-650-5421
FAX：045-650-5422／E-mail：info@yaaic.gr.jp
平日：13：00～20：00／土・祝：10：00～17：00
休館：日／火
監修：横浜市健康福祉局健康安全課

特集　夏休み前に確認！STIを予防！

第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 ～リアルとであう～

横浜だから聞ける！魅力いっぱいの講座がたくさん開催されます。無料・予約不要。
今年も会場でお待ちしています！

講座を一部紹介！

①“リアル？”“ヴァーチャル？”若者を取り巻くコミュニケーションを語る

下村健一さん
（白鷗大学客員教授／元 TBS 報道キャスター）
日時：８月４日（金）13:00～15:00
会場：かながわ県民センター301 教室（定員 90 人）
「10 代からの情報キャッチボール入門（岩波書店）」の著者が、各地で実践している授業を披露。

②アフリカのエイズと青年海外協力隊員

日時：８月６日（日）11:00～12:00
会場：かながわ県民センター302 教室（定員 30 人）
主催：横浜 AIDS 市民活動センター
アフリカのモザンビークでエイズボランティア活動に取り組んだ青年海外協力隊経験者が語ります！
現地の活動と経験した苦楽、地域の魅力など。
将来、ボランティア活動を考えている方にもおススメ！

③自分と相手を大切にするって？　えんみちゃんからのメッセージ

遠見才希子さん
日時：８月６日（日）13:00～15:00
会場：かながわ県民センター303 教室（定員 30 人）
産婦人科の現場から事例をもりこんだ中高生対象の性のお話です。
心に響くメッセージの伝え方を伝授します。

♠第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜♠「つながる　ひろがる　わかちあう」
日程：2017 年 8 月 4 日（金）～6 日（日）10 時～17 時 30 分（最終日は 16 時）
会場：かながわ県民センター（横浜駅西口）　予約不要・無料
主催：AIDS 文化フォーラム in 横浜組織委員会　共催：神奈川県
フォーラムへのお問い合わせ：AIDS文化フォーラムin横浜事務局　横浜 YMCA 国際・地域事業　高村・大塚
TEL：045-662-3721（代）　FAX：045-651-0169　E-mail: abf@yokohamaymca.org　URL：http://www.yokohamaymca.org/AIDS/

★センターからのお知らせ★

◆Act Against AIDS の 2017 年エイズ知識啓発ポスターパネル　貸出開始

No1. 1 日約 4 人-昨年1年間、日本で HIV 感染がわかった人の数-

No2. 感染は若者だけじゃない!!

No3. HIV 感染のほとんどが性的接触

No4. 日常生活では感染しない!

No5. HIV 検査は保健所なら匿名・無料

No6. 世界の HIV 感染者は 3,670 万人

音楽業界を中心にエイズ啓発活動を行っている Act Against AIDS が制作した最新ポスターのパネル（B2 版・６枚セット）を貸し出しています。文化祭やイベントなどでの展示に便利です。

貸出方法詳細は、横浜 AIDS 市民活動センターの HP でご確認ください。

URL：　http://www.yaaic.gr.jp/

◆第 25 期 AIDS ボランティア学校開講中！
認定 NPO 法人 AIDS ネットワーク横浜が主催する AIDS ボランティア学校の参加者を募集しています。１講座から受講が可能で参加無料です。
今後の日程：
８月６日（日）　会場　かながわ県民センター（第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜会場内）
　10:00～12:00「母と子を守る―感染者の分娩・未受診妊婦」水主川純さん（聖マリアンナ医大病院産科副部長）
　13:00～15:00「性感染症にご注意！」井戸田一朗さん（新宿しらかば診療所）
８月 26 日（土）会場　横浜 AIDS 市民活動センター
　10:30～12:30「感染者、患者の看護と介護」宮林優子さん（横浜市民病院感染症科看護師）
　13:30～15:30「感染者・患者の生活とソーシャルワーカーの役割」友田安政さん（横浜市大付属病院）
申込等の詳細は AIDS ネットワーク横浜 HP へ→　http://www.netpro.ne.jp/~any/

◆休館のお知らせ
　臨時休館：2017 年８月５日（土）※AIDS 文化フォーラム in 横浜参加のため
　夏季休館：2017 年８月 13 日（日）～17 日（木）

◆横浜 AIDS 市民活動センターは「世界エイズデーin Yokohama 2017」（2017 年 11 月 18 日（土）13:00～16:00 会場は横浜駅東口の新都市プラザ）の高校生・学生ボランティアを募集しています。ご関心のある方はセンターまでお問い合わせください。
TEL　045-650-5421　FAX　045-650-5422

特集　夏休み前に確認！STIを予防！

学ぼう！身近な病気・STI（エスティーアイ）

ＳＴＩという言葉を聞いたことはありますか？
コムちゃんとお医者さんのやりとりを読みながら、
ＳＴＩの正しい基礎知識を学びましょう。

横浜AIDS市民活動センター
コムちゃん

先生、ききたいことがあります！STIという言葉をはじめて聞いて…、どうやら病気のことみたいなのですが、先生は知っていますか？

○○市保健所
浜横先生

よい質問ですね、知っていますよ。STIとは、Sexually Transmitted Infections という英語の言葉の頭文字をとったものです。日本語だと、“性感染症”といいます。コムちゃんは性感染症のことを知っているかな？

あっ、中学校保健体育の教科書で少し習いました。けど…、あんまり関係ないような気がして、ちゃんと覚えていません!!!

とても大切な知識だから、おさらいしましょう。
性感染症とは、性的接触により感染するいろいろな病気のこと。性感染症を引き起こす病原体（ウイルス、細菌、原虫など）は、感染者の精液・膣分泌液（ちつぶんぴつえき）・血液などの体液や、性器や口などの粘膜（ねんまく）やその周辺の皮膚（ひふ）に存在しています。これらが他の人の粘膜や皮膚に接触することで感染するんだよ。

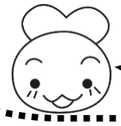
なるほど。ところで、実際、どんな症状がでるのですか？

性器クラミジア感染症、りん菌感染症、性器ヘルペス感染症、梅毒（ばいどく）など、さまざまな性感染症があります。症状は、性器周辺のかゆみ・痛み・うみ・水ぶくれ・いぼ、腹痛、皮膚の赤い斑点など、病気によってさまざまです。潜伏期間や治療方法もそれぞれ違います。自己判断はしないで、不安な症状などがあれば、すぐに医療機関で診察を受けてください！

ただし、性感染症のなかには**自覚症状がほとんどでないもの、発症までの潜伏期間が長いもの**もあり、気がつかないうちに病気が進行してしまうこともあります。

気づかずに治療も受けずに放置していると、どうなるの…???

治療せずに放置しておくと、男女ともに将来不妊の原因になることもあるし、気づかないうちに他の人に感染させてしまうかもしれません。完治する治療方法が見つかっていない HIV・エイズも性感染症ですが、他の性感染症にかかっているとHIV に感染する確率が上がります。
性感染症は決して他人事じゃないということを覚えておいてくださいね！

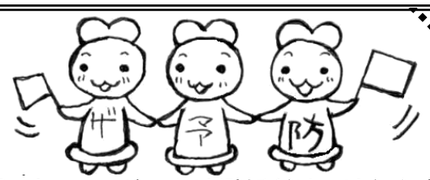


将来のためにも、正しい知識・情報を知ることが大切ですね。教科書も読み返してみます！先生、ありがとうございました！

防ごう！STI

性感染症にかからない、うつさないためにはどうしたらよいのでしょうか？　浜横先生が解説します。

浜横先生の解説①　性感染症の予防



性感染症の 1 番の予防は「性的接触をしないこと」です。

2 番目は「性的接触の際はコンドームを正しく使い予防すること」。コンドームは避妊だけではなく、性感染症予防にも有効です。自分の健康を守るだけではなく、相手の健康を守ることにもつながります。性感染症予防や避妊に協力しない相手には「NO（ノー）」と言いましょう。性感染症予防や避妊に協力しない人は相手の健康や将来を思いやっていないからです。

とはいっても、相手との関係でどう行動したらよいかわからないときや、不安になってしまうときもありますね。そんなときは、保健室の先生など信頼できる大人に相談してみましょう。名前を言わずに相談したい場合は、電話相談も気軽に利用してくださいね。

電話相談　横浜市夜間休日エイズ電話相談　水曜 18:00～21:00、土曜 15:00～18:00

TEL　045-201-8808　（認定 NPO 法人 AIDS ネットワーク横浜）

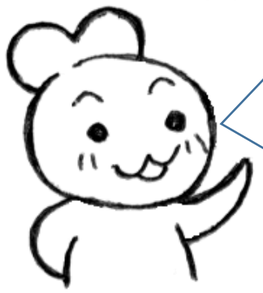
※HIV・エイズを含むさまざまな性感染症の相談ができます。とく名のため、名前など個人情報を言う必要はありません。
※8 月 5 日（土）、16 日(水)はお休みです。

浜横先生の解説②　性感染症を繰り返さないで！

性感染症かもしれない…と思うような症状がでたら、<u>ためらわず、すぐに</u>医療機関にいきましょう。男性は泌尿器科、女性は婦人科、皮膚に症状があれば皮膚科でも大丈夫。

そして、性感染症と診断を受けたら、必ず医師の指示に従い、治療を最後まで続けましょう。性的接触をした相手にも検査・治療を受けてもらうことが大切です。お互いに性感染症を完治させないと、再感染を繰り返してしまう可能性があるからです。

★★★コムちゃんからのメッセージ★★★



コムちゃんは学んだ知識をみんなに伝えられるようにがんばるよ!!

性感染症はとくに 10 代～20 代の若者の間で流行しています！

コムちゃんが皆さんに大切にしてもらいたいこと！
①性感染症について理解を深める
（保健体育教科書や図書室・図書館の書籍で調べてみよう！）
②学んだ知識を、感染を防ぐ行動につなげる
③症状がでている場合、すぐに診察・治療を受ける
④どうしてよいかわからないときは、1 人で抱え込まずに周囲の信頼できる人、専門の相談機関に相談する

性感染症はたった一度の性的接触で感染することもあります。
病原体は、目にはみえないので、“自分は大丈夫”では防げません！
あなたの将来に関わる大切な知識、しっかりと学んで行動につなげていきましょう！